

つかむ

調べる

まとめる

深める

～自然災害への対策を比較・分類することで、防災や減災について考えをまとめる活動～

### 1. 小単元名『自然災害とともに生きる』

(教科書：『小学社会 5下』 p.40～47／学習指導要領：内容（1）エ）

### 2. 小単元の目標

日本では様々な自然災害が起こり、それらは国土の自然の特色と関わっていることを理解するとともに、災害から暮らしを守るための様々な取り組みについて調べ、自分たちにもできる取り組みについて考えさせる。

### 3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
自然災害から暮らしを守るためにどのような取り組みや工夫がなされているのか、意欲的に調べようとしている。	自然災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて、調べたことをもとに考え、表現している。	日本で起こる自然災害と、災害から暮らしを守るための取り組みについて、様々な資料から適切に読み取り、わかったことをノートなどに整理している。	日本では様々な自然災害が発生し、それらの発生は国土の自然の特色と関係があることを理解している。また、災害から暮らしを守るために、様々な公共事業や地域での協力をもとにした活動が行われていることや、防災だけでなく減災の考え方も大切であることを理解している。

### 4. 指導にあたって

#### (1) 教材について

わが国は、地震や津波などの自然災害が頻繁に起きる国土であり、古くから人々の生活と自然災害とが密接に関連している。そして、今後も大規模な地震の発生が懸念されているのが現状である。本小単元では、わが国の国土では自然災害が起こりやすいことや、それらの自然災害に対して、国や都道府県などが様々な対策や事業を進めていることを調べ、自然災害の防止と国民生活との関わりについて学習する。そして、国民一人ひとりの防災意識を高めることの大切さに気づかせるようにする。なお、なんらかの災害で被災した地域や、被災者のいる地域や学級では、実情に応じた教材の扱いが必要となる。

#### (2) 指導上の工夫・留意点

本小単元の導入では、わが国で過去に起きた自然災害について調べる。その際には、国土の地形や気候についての学習を振り返り、自然条件の特色と自然災害を関連付けて考えさせるようにする。

また、自然災害の被害の様子をつかむ資料として、東日本大震災の事例を取り上げることも考えられる。このように、先の震災から学ぶことは有意義であるが、被災の様子を伝える資料の扱いについては、子どもの心に与える影響にも配慮しなければならない。

そして、国や都道府県が進めている防災のための対策や事業について調べる。その際には、堤防の整備、ハザードマップの作成などの具体例を取り上げたり、自分たちの地域の取り組みについて触れたりして、児童が実感を伴って調べられるようにしたい。

最後に、自然災害を防ぐためには、国や都道府県の対策や事業、地域による取り組みだけでなく、自分自身の防災意識を高め、自分の身は自分で守れるようにすることが大切であり、それが「防災・減災」につながるということを考えさせるようにしたい。

## 5. 小単元の指導（総時数5時間）

時数	ねらい	○学習活動
② (つかむ)	日本で起こった自然災害を調べることを通して、自然災害と国土の自然環境との関係について考えるとともに、自然災害から暮らしを守るための取り組みについて、調べていく見通しをもてるようにする。	○日本の自然災害について、様々な資料をもとに調べ、自然災害と国土の自然環境との関係について話し合う。 ○自然災害から暮らしを守るための取り組みについて調べる学習問題をつくる。
① (調べる)	自然災害から暮らしを守るために、国や都道府県などが、施設の建設や避難場所の決定・周知といった様々な公共事業に取り組んでいることを理解できるようにする。	○自然災害から暮らしを守るための国や都道府県などの取り組みについて、各種資料から調べて発表し合い、自分たちの地域での取り組みについても話し合う。
① (調べる)	自然災害から暮らしを守るために、「減災」の考え方が広まっていることを捉える。	○災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて、具体的な資料を通して考え、話し合う。
① (まとめる)	防災や減災の取り組みと自分たちとの関わりについてまとめるとともに、自然災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることを考えられるようにする。	○これまで学習してきた災害への対策を図に整理してまとめ、災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることについて考える。

## 6. 本時の指導（第5／5時）

### (1) 本時のねらい

防災や減災の取り組みと自分たちとの関わりについてまとめるとともに、自然災害から暮らしを守るために、地域で協力してできることや自分にできることを考えられるようにする。

### (2) 本時における考え合い表現し合う活動と指導の留意点

本時は、わが国の自然災害や、それらに対する国や都道府県の対策や事業について、今までの学



<p>10</p>	<p>C: 県や市が、防災マップをつくっている。  C: 地域で協力して、防災マップをつくっている人たちもいる。  C: 地域で防災訓練が行われている。  C: 私たちも、地域の防災訓練に参加することができる。  C: 災害時に必要なものを用意しておくこともできる。  ○ベン図の中心(「自助」「共助」「公助」が重なっている部分)にふさわしい言葉を考え、話し合う。  T: いくつか対策を出して、分類することもできました。それでは、円が重なった中心の部分には、どのような言葉がふさわしいですか。グループで話し合って、重なった部分に、タイトルをつけましょう。  C: ぼくは「防災」がいいと思います。自助や公助、共助の全てがそろって、防災になると思ったからです。  C: 私は、「減災」がふさわしいと思います。理由は、それぞれの活動が行われることで、減災につながると思ったからです。  T: 話し合ったタイトルを発表してください。  C: ぼくたちのグループでは「防災」がふさわしいということになりました。防災には、自助の取り組みも、共助、公助の取り組みも含まれていると思ったからです。</p>	<p>◇いくつかの対策を分類し、まとめられた児童には、図の中心にふさわしいタイトルを考えさせるようにする。  ◇ベン図から、「防災・減災」のためには、「自助・共助・公助」のそれぞれが必要であることを捉えさせるようにする。  ◆自然災害から暮らしを守るための取り組みについて、調べたことや自分にできることを図にまとめ、自分の考えを表現している。  (思・判・表/ベン図, ノート)</p>
<p>10</p>	<p>○学習問題のこたえを考え、まとめる。  T: 本時の課題は、学習問題のこたえを考えることでした。それでは、ベン図や友達の考えを参考にして、まとめていきましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>学習問題のこたえ</b>  (自然災害からくらしを守るために,) 国や県が避難タワーや堤防をつくったり、地域の人たちが一緒に避難訓練などをしたりして、防災や減災の取り組みが行われている。</p> </div> <p>5 T: 最後に、学習を通して、考えたことや感じたことの振り返りをしましょう。  C: 防災や減災のためには、自助も大切だから、自分も訓練などに参加して、備えなければいけないと思った。  C: 自分や家族のことも考え、災害が起きたときに、自分にもできることを考えておこうと思った。</p>	<p>◆自然災害に備えるうえで大事なことを振り返り、自分にできる防災や減災の取り組みについて考えようとしている。  (関・意・態/ノート)</p>